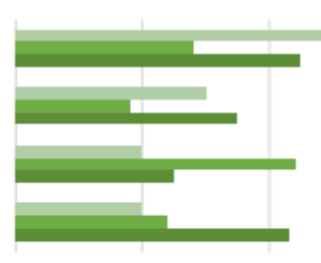
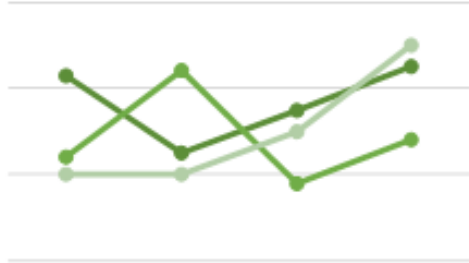
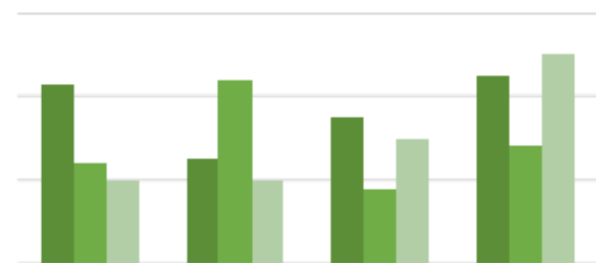


令和4年度 第2回データ活用WG

令和4年度第1回 データ活用ワーキンググループの 意見交換まとめ



第1回WGの意見まとめ

庁内データ棚卸しについて

- 本来は**データベース基盤が整備**され、自治体も基盤からデータを使うようにしないと、データを作ることが手間になり進まない。
- 昨年のハッカソンに参加して、**もっとデータがあるはずなのに無かったり、公開されていてもPDF**であったり、まだまだ課題があると感じた。
- 公開したことで何か成功事例が生まれるようなことが必要。
- データを**可視化して**誰にでもわかるようにすることに力を入れるべき。
- データをどう見せるか、市民、生活者、企業も知るべき。
- そもそも**データがあるかわからない**と、データを探す難易度が増してしまう。
- データ棚卸し調査はターゲットを絞った方が良い。
- **データを入れる箱も需要**。課題を解決していくためにデータを公開していく。
- 目的が無い中で、データを「さあ使え」といっても難しい。

第1回WGの意見まとめ

民間のデータ利活用

- 誰が使っているかわからないのは、民間で一番危惧するところ。信頼できるかがとても重要。
- お金にならなくても公開して良いというデータはある。交通整備とルール作りが重要。
- 最近ではディープラーニングなどにデータが使われる。そういったアイデアやディスカッションも見える化されれば、民間の方々もデータを出してみるかという話になるかも。
- データを分類してみせると、民間も使い勝手もいいのかと思う。
- 大学のデータ公開、事務員も忙しいので、大変難しい。民間企業も同じではないか。
- データを公開して、こんなことがうれしい、新しいという事例を増やしていくことが大事。
- AIやDX人材が重要となってきたときに、整備された形のコンテスト形式になっているから参加しようというところも出てくる。
- プログラミングはしないけどAIを使いたいという層の人たちに対して、ツールやデータがあれば、複数のデータをクロスして分析するようなことをして、人材育成に繋げる。
- 民間企業からこういうことをやりたいということを見せられると、進めやすい。
- 商品データや二次創作のライセンスデータ、採用活動情報などはむしろ一人歩きしても出てもらいたい。
- 結構まとめが難しい。